

## 「食料の供給に関する特別世論調査」の概要

平成 22 年 10 月 14 日

内閣府政府広報室

調査概要	調査対象	全国 20 歳以上の者 3,000 人
	有効回収数(率)	1,939 人 (64.6%)
	調査期間	平成 22 年 9 月 2 日～9 月 12 日
	調査方法	調査員による個別面接聴取

調査目的 食料の供給に対する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。

- 調査項目
- 1 現在の食料自給率に関する意識
  - 2 将来の食料輸入に対する意識
  - 3 将来の食料輸入に対する不安の理由
  - 4 食料の生産・供給のあり方に対する意識
  - 5 今後の我が国の食料自給率に対する意識
  - 6 食料自給率向上のための施策に対する意識
  - 7 食料自給率向上のための行動

＜お願い＞

本資料の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを下記宛にご送付ください。

内閣府大臣官房政府広報室

世論調査担当

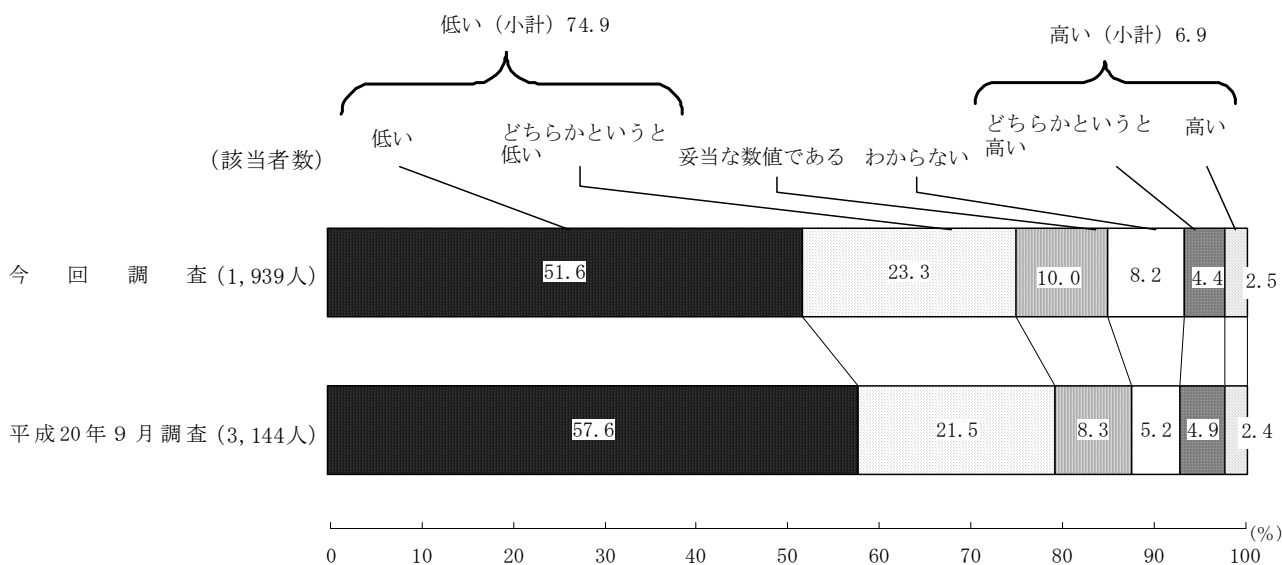
〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1

電話 03(3581)0070

FAX 03(3580)1186

# 1 現在の食料自給率に関する意識

	平成20年9月	→	平成22年9月
・ 低い (小計)	79.2%		74.9% (減)
・ 低い	57.6%		51.6% (減)
・ どちらかという低い	21.5%		23.3%
・ 妥当な数値である	8.3%		10.0% (増)
・ 高い (小計)	7.3%		6.9%
・ どちらかという高い	4.9%		4.4%
・ 高い	2.4%		2.5%



(注) 平成20年9月調査では、「我が国は外国からいろいろな食料品を輸入しています。その結果、我が国の「食料自給率」は、現在カロリーベースで約40%となっていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。この中から1つだけお答えください。」と聞いている。

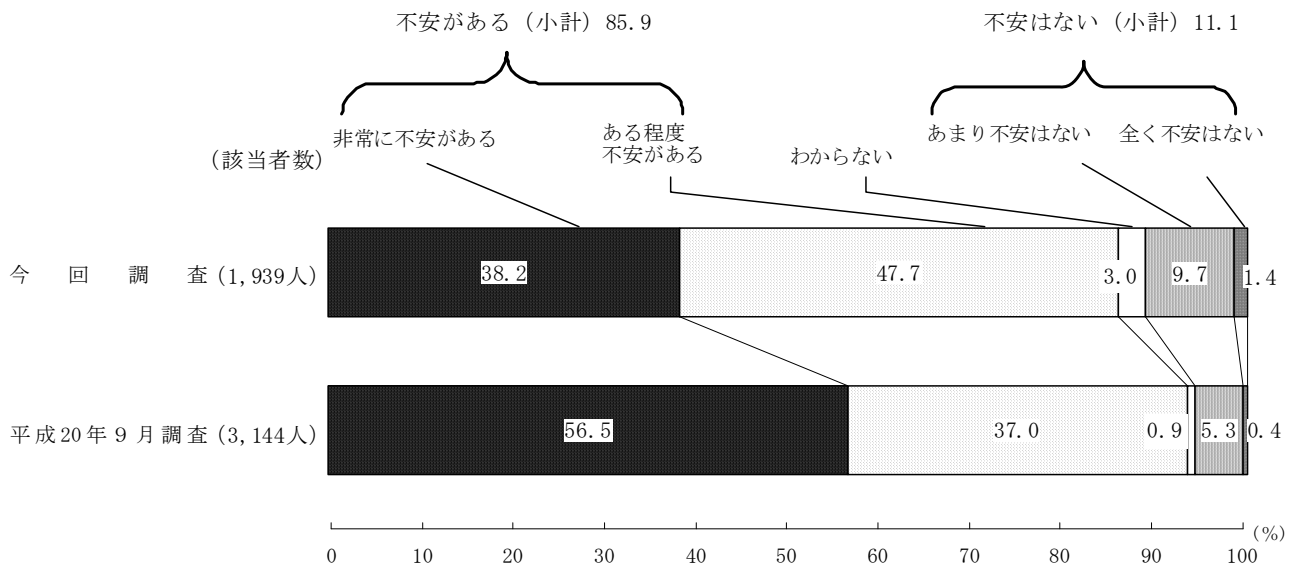
[参考] 現在の食料自給率に関する意識

	該 当 者 数	低			妥 当 な 数 値 で あ る	高		わ か ら な い
		(小計) 低い	低い	どちらかという低い		(小計) 高い	高い	
	人	%	%	%	%	%	%	%
平成20年9月調査	3,144	79.2	57.6	21.5	8.3	7.3	4.9	2.4
平成18年11月調査	1,727	70.1	47.0	23.1	11.8	5.6	3.6	2.0
平成12年7月調査	3,570	52.8	32.9	19.9	19.8	10.8	6.9	3.9

## 2 将来の食料輸入に対する意識

### (1) 将来の食料輸入に対する意識

	平成20年9月		平成22年9月
・ 不安がある (小計)	93.4%	→	85.9% (減)
・ 非常に不安がある	56.5%	→	38.2% (減)
・ ある程度不安がある	37.0%	→	47.7% (増)
・ 不安はない (小計)	5.7%	→	11.1% (増)
・ あまり不安はない	5.3%	→	9.7% (増)
・ 全く不安はない	0.4%	→	1.4% (増)



〔参考〕 将来の食料輸入に対する意識

	該 当 者 数	不 安 が (小 計 ) る	非 常 に 不 安 が あ る (注 2)	あ る 程 度 不 安 が あ る (注 3)	不 安 は (小 計 ) い	あ ま り 不 安 は な い	全 く 不 安 は な い	わ か ら な い
	人	%	%	%	%	%	%	%
平成20年9月調査	3,144	93.4	56.5	37.0	5.7	5.3	0.4	0.9
平成18年11月調査	1,727	76.7	28.7	48.0	18.4	16.3	2.1	4.9
平成12年7月調査	3,570	78.4	26.6	51.8	18.5	16.6	1.9	3.1
平成8年9月調査	3,567	70.5	17.3	53.2	26.2	23.1	3.1	3.3
平成5年11月調査	2,219	71.1	17.1	53.9	27.1	23.1	4.0	1.8
平成2年10月調査	2,292	62.8	12.7	50.1	32.6	27.7	4.9	4.6

(注1) 平成18年11月調査までは、「あなたは、我が国の食料供給についてどのようにお考えでしょうか。この中から1つ選んでください。」と聞いている。

(注2) 平成2年10月調査では、「非常に不安を持っている」となっている。

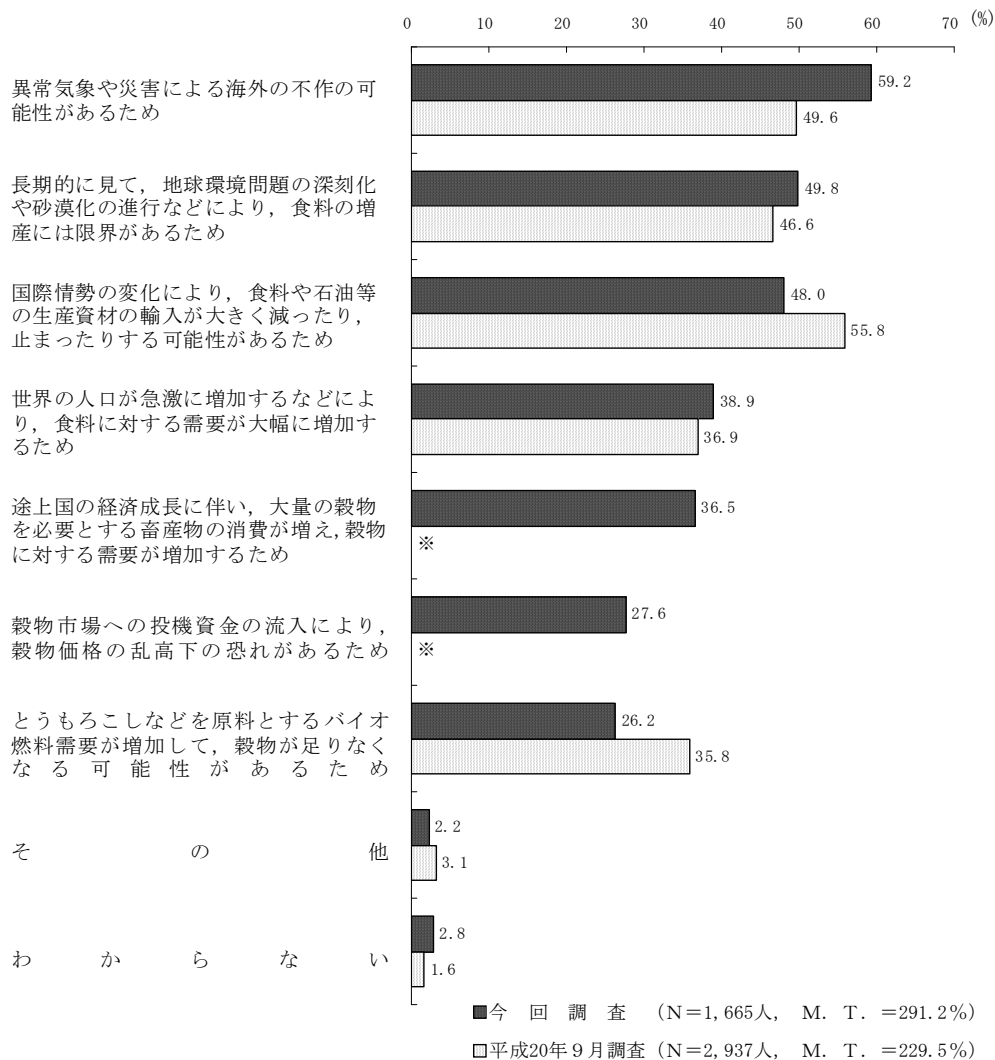
(注3) 平成2年10月調査では、「ある程度不安を持っている」となっている。

(将来の食料輸入について、「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」と答えた者(1,665人)に)

(2) 将来の食料輸入に対する不安の理由(複数回答, 上位5項目)

	平成20年9月	平成22年9月
・ 異常気象や災害による海外の不作の可能性があるため	49.6%	→ 59.2% (増)
・ 長期的に見て, 地球環境問題の深刻化や砂漠化の進行などにより, 食料の増産には限界があるため	46.6%	→ 49.8% (増)
・ 国際情勢の変化により, 食料や石油等の生産資材の輸入が大きく減ったり, 止まったりする可能性があるため	55.8%	→ 48.0% (減)
・ 世界の人口が急激に増加するなどにより, 食料に対する需要が大幅に増加するため	36.9%	→ 38.9%
・ 途上国の経済成長に伴い, 大量の穀物を必要とする畜産物の消費が増え, 穀物に対する需要が増加するため	※	→ 36.5%

(将来の食料輸入について、「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」と答えた者に, 複数回答)



※: 調査をしていない項目

〔参考1〕 将来の食料輸入に対する不安の理由

(将来の食料輸入について、「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」と答えた者に、複数回答)

	該 当 者 数	ま 生 国 つ 産 資 際 情 材 勢 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り 、 石 油 等 の	性 異 常 気 象 や 災 害 に よ る 海 外 の 不 作 の 可 能	は 砂 漠 的 の 進 行 な ど に よ り 、 食 料 の 深 刻 化 や	長 期 的 に 見 て 、 地 球 環 境 問 題 の 増 産 に よ る	た り 、 世 界 の 人 口 が 急 激 に 増 加 す る な ど に よ る	可 能 性 が あ る た め	と う も ろ こ し な ど を 原 料 と す る バ イ オ 燃	そ の 他	わ か ら な い	計 (M. T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
平成20年9月調査	2,937	55.8	49.6	46.6	36.9	35.8	3.1	1.6	229.5		
平成18年11月調査	1,325	61.6	56.2	56.5	29.4	※	2.2	1.2	207.2		
平成12年7月調査	2,799	43.7	46.0	48.6	31.1	※	1.8	2.9	174.1		
平成8年9月調査	2,515	38.4	55.0	46.1	36.9	※	3.8	1.0	181.1		

(注) 平成18年11月調査までは、「あなたが将来の食料供給について不安があるとお考えになるのは、どのような理由からでしょうか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

※：調査をしていない項目

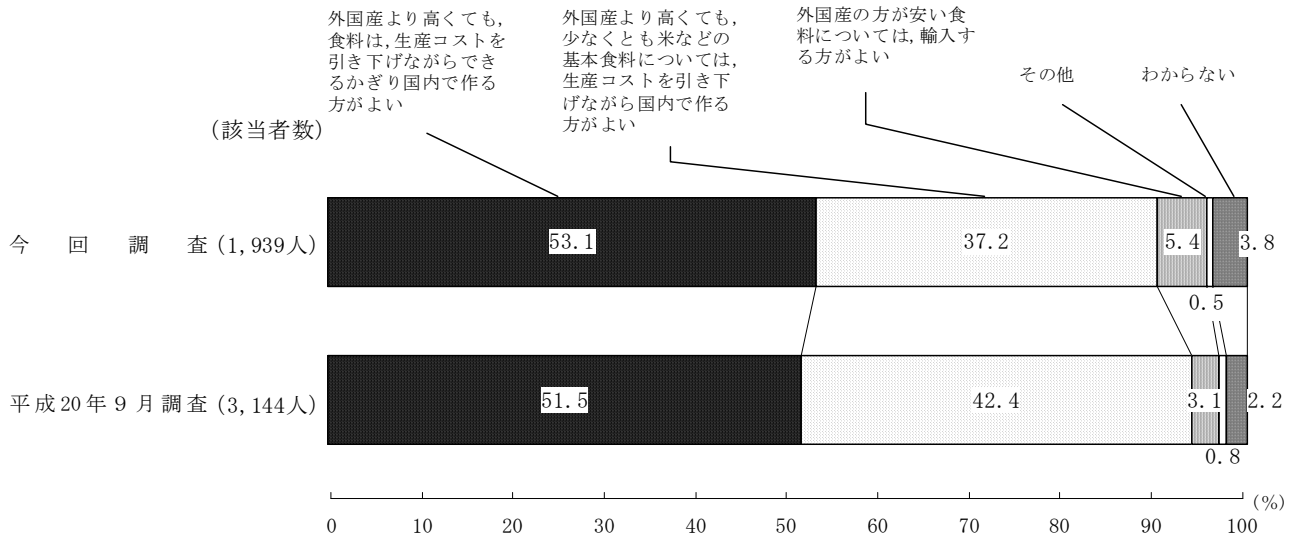
〔参考2〕 食料供給に不安がある理由

(将来の食料供給について、「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」と答えた者に、複数回答)

	該 当 者 数	性 異 常 気 象 や 災 害 に よ る 内 外 の 不 作 の 可 能	れ よ り 、 長 期 的 に 見 て 、 地 球 環 境 問 題 の 深 刻 化 に よ る	ま 生 国 つ 産 資 際 情 材 勢 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り 、 石 油 等 の	に は 世 界 の 人 口 が 増 え る 一 方 で 、 食 料 の 増 産	る た め	り 長 期 的 に 見 て 、 農 地 が 減 つ て い く 恐 れ が あ	そ の 他	わ か ら な い	計 (M. T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	
平成5年11月調査	1,577	66.3	39.7	35.3	33.7	22.4	2.7	0.8	201.0	
平成2年10月調査	1,440	41.1	40.7	55.2	33.5	24.9	2.0	1.2	198.7	

### 3 食料の生産・供給のあり方に対する意識

	平成 20 年 9 月	平成 22 年 9 月
・ 外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら、できるかぎり国内で作る方がよい	51.5%	53.1%
・ 外国産より高くても、少なくとも米などの基本食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい	42.4%	37.2% (減)
・ 外国産の方が安い食料については、輸入する方がよい	3.1%	5.4% (増)



[参考] 食料の生産・供給のあり方に対する意識

	該 当 者 数	(注2) 外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい (%)	外国産より高くても、少なくとも米などの基本食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい (%) (注3)	外国産の方が安い食料については、輸入する方がよい (%)	その他 (%)	わからない (%)
平成20年9月調査	3,144	51.5	42.4	3.1	0.8	2.2
平成18年11月調査	1,727	42.3	44.5	7.8	0.6	4.7
平成12年7月調査	3,570	43.6	40.6	10.5	0.6	4.6
平成8年9月調査	3,567	45.9	37.5	10.8	0.3	5.4
平成5年11月調査	2,219	32.7	44.7	17.4	0.5	4.7
平成2年10月調査	2,292	32.7	40.5	17.0	0.3	9.5
昭和62年9月調査	2,323	31.9	39.3	19.9	0.2	8.7

(注1) 平成18年11月調査までは、「あなたは、我が国の食料の生産・供給のあり方について、どのようにお考えですか。この中からあなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。」と聞いている。

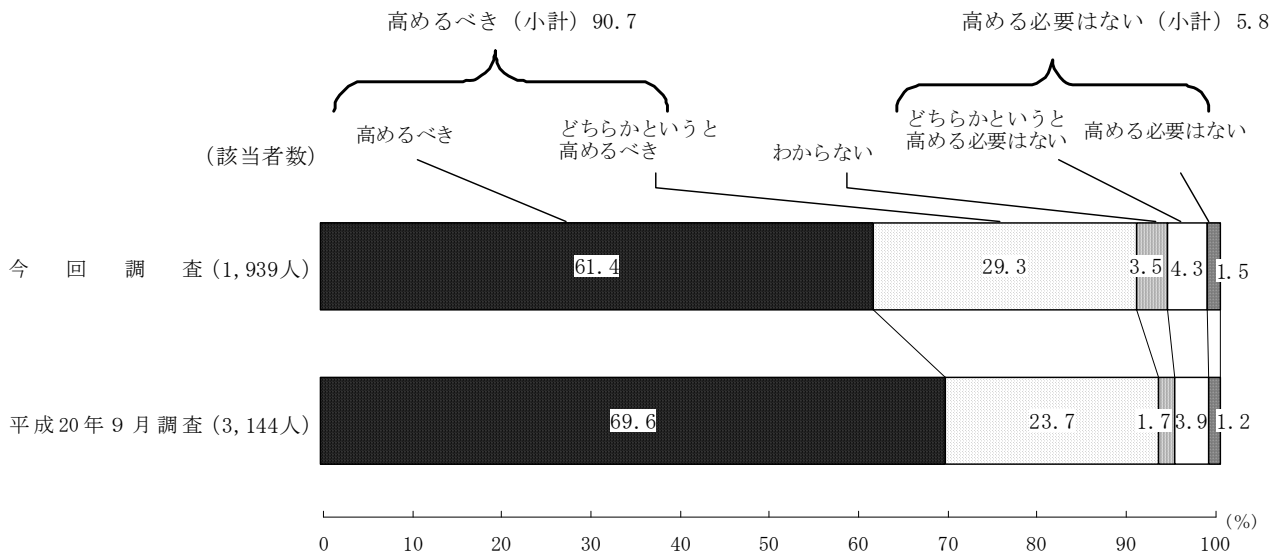
(注2) 平成5年11月調査までは、「外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい」となっている。

(注3) 平成18年11月調査までは、「外国産より高くても、少なくとも米などの主食となる食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい」となっている。

#### 4 今後の我が国の食料自給率に対する意識

##### (1) 今後の我が国の食料自給率に対する意識

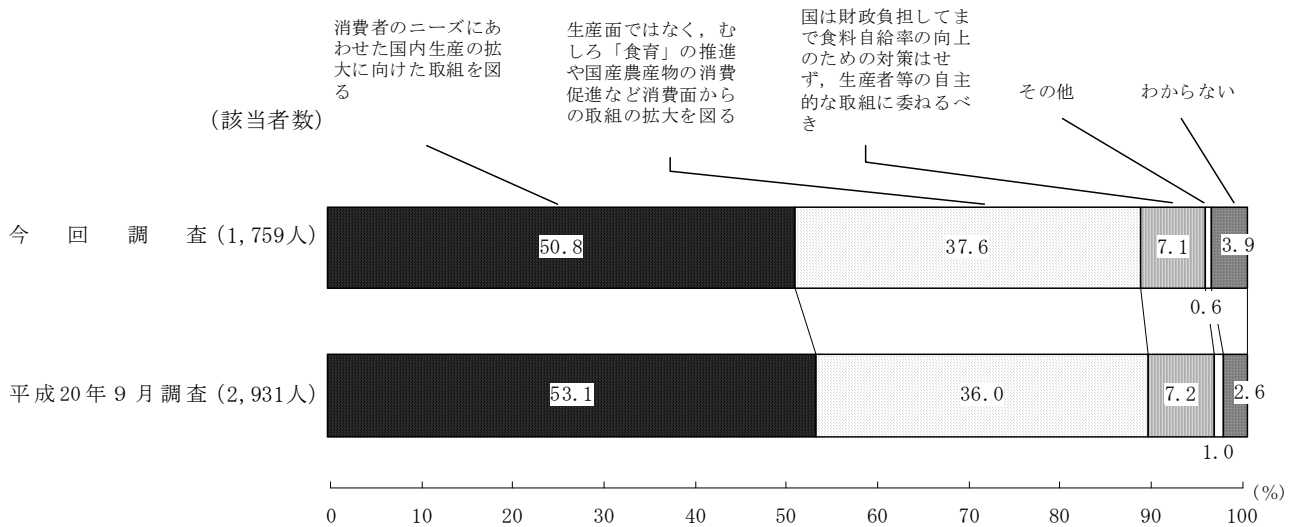
	平成 20 年 9 月		平成 22 年 9 月
・ 高めるべき (小計)	93.2%	→	90.7% (減)
・ 高めるべき	69.6%	→	61.4% (減)
・ どちらかというと高めるべき	23.7%	→	29.3% (増)
・ 高める必要はない (小計)	5.1%	→	5.8%
・ どちらかというと高める必要はない	3.9%	→	4.3%
・ 高める必要はない	1.2%	→	1.5%



(今後の食料自給率について、「高めるべき」、「どちらかというとも高めるべき」と答えた者(1,759人)に)

(2) 食料自給率向上のための施策に対する意識

	平成 20 年 9 月	平成 22 年 9 月
・ 消費者のニーズにあわせた国内生産の拡大に向けた取組を図る	53.1%	→ 50.8%
・ 生産面ではなく、むしろ「食育」の推進や国産農産物の消費促進など消費面からの取組の拡大を図る	36.0%	→ 37.6%
・ 国は財政負担してまで食料自給率向上のための対策はせず、生産者等の自主的な取組に委ねるべき	7.2%	→ 7.1%



[参考] 食料自給率向上のために必要と思う施策

		(全員に)										
該当者数	該	生産者の拡大を図る	消費のニーズにあわせた国内	拡大を図る	促進の推進や国産農産物の消費	「食育」の推進や国産農産物の消費	生産面ではなく、むしろ「食育」の推進や国産農産物の消費促進など消費面からの取組の拡大を図る	に委ねるべき	国は財政負担してまで食料自給率の向上のための対策はせず、生産者等の自主的な取組に委ねるべき	た国も生産者も食料自給率向上のため	その	わ
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成18年11月調査	1,727	36.7	37.5	10.2	5.0	1.3	9.3					

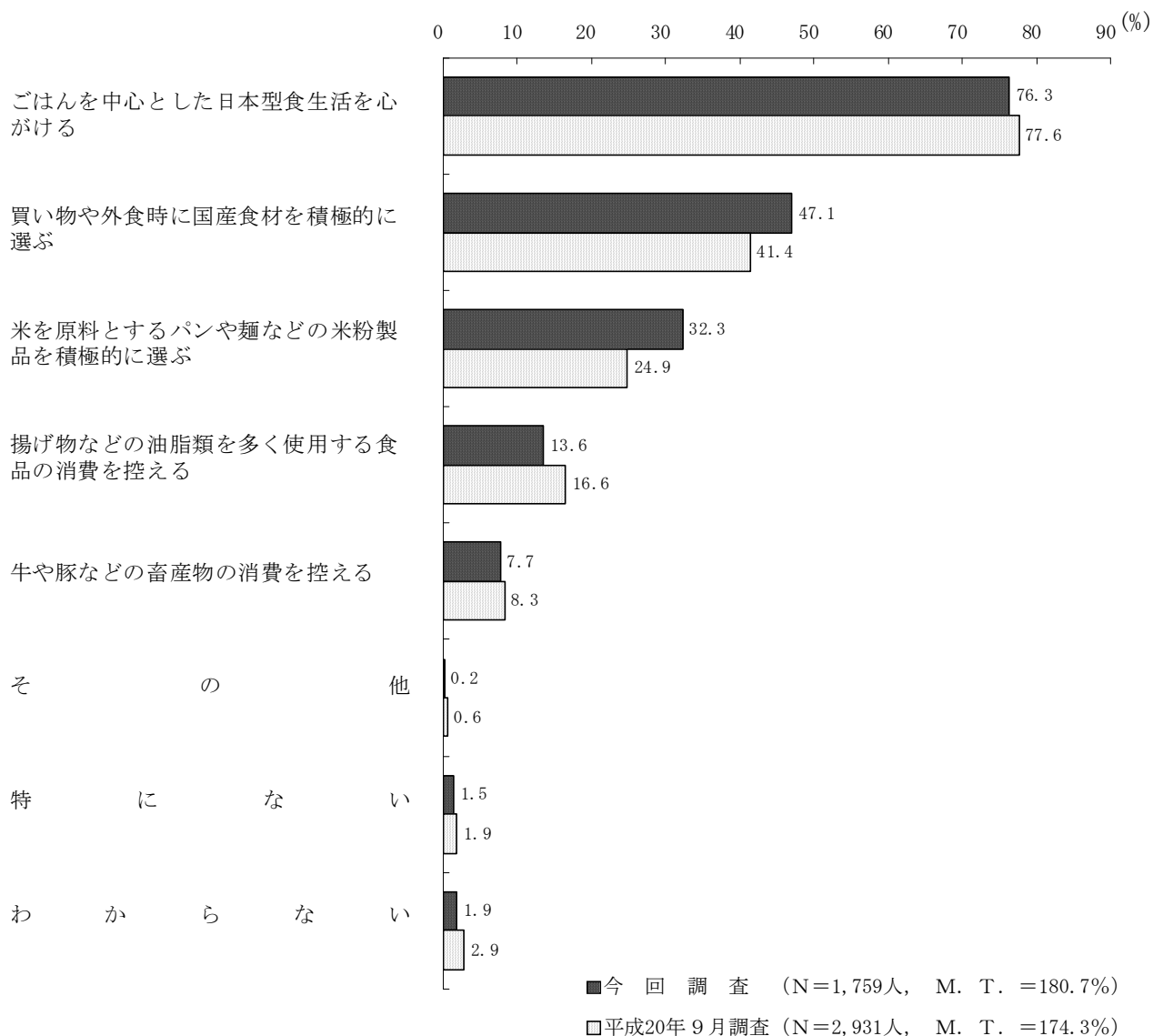


(今後の食料自給率について、「高めるべき」、「どちらかというとも高めるべき」と答えた者(1,759人)に)

(3) 食料自給率向上のための行動(複数回答, 上位4項目)

	平成20年9月	平成22年9月
・ ごはんを中心とした日本型食生活を心がける	77.6%	76.3%
・ 買い物や外食時に国産食材を積極的に選ぶ	41.4%	47.1% (増)
・ 米を原料とするパンや麺などの米粉製品を積極的に選ぶ	24.9%	32.3% (増)
・ 揚げ物などの油脂類を多く使用する食品の消費を控える	16.6%	13.6% (減)

(今後の食料自給率について、「高めるべき」、「どちらかというとも高めるべき」と答えた者に、複数回答)



## 食料の供給に関する特別世論調査

調査時期：平成22年9月2日～9月12日  
調査対象：全国20歳以上の者3,000人  
有効回収数（率）：1,939人（64.6%）

話は変わりますが、次に時事問題として、「食料の供給」についてお伺いします。

Q1【回答票1】我が国は外国からいろいろな食料品を輸入しています。その結果、我が国の「食料自給率」は、現在カロリーベースで40%となっていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。この中から**1つだけ**お答えください。

- (51.6) (ア) 低い
- (23.3) (イ) どちらかという低い
- (10.0) (ウ) 妥当な数値である
- (4.4) (エ) どちらかという高い
- (2.5) (オ) 高い
- (8.2) わからない

Q2【回答票2】あなたは、我が国の将来の食料輸入についてどのようにお考えでしょうか。この中から**1つだけ**お答えください。

- (38.2) (ア) 非常に不安がある
- (47.7) (イ) ある程度不安がある
- (9.7) (ウ) あまり不安はない
- (1.4) (エ) 全く不安はない
- (3.0) わからない

SQへ

} → Q3へ

【Q2で「(ア)非常に不安がある」, 「(イ)ある程度不安がある」と答えた者に】

SQ【回答票3】あなたが将来の食料輸入について不安があるとお考えになるのは、どのような理由からでしょうか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(N=1,665)

- (38.9) (ア) 世界の人口が急激に増加するなどにより、食料に対する需要が大幅に増加するため
- (36.5) (イ) 途上国の経済成長に伴い、大量の穀物を必要とする畜産物の消費が増え、穀物に対する需要が増加するため
- (26.2) (ウ) とうもろこしなどを原料とするバイオ燃料需要が増加して、穀物が足りなくなる可能性があるため
- (27.6) (エ) 穀物市場への投機資金の流入により、穀物価格の乱高下の恐れがあるため
- (49.8) (オ) 長期的に見て、地球環境問題の深刻化や砂漠化の進行などにより、食料の増産には限界があるため
- (59.2) (カ) 異常気象や災害による海外の不作の可能性があるため
- (48.0) (キ) 国際情勢の変化により、食料や石油等の生産資材の輸入が大きく減ったり、止まったりする可能性があるため
- ( 2.2) その他 ( )
- ( 2.8) わからない

(M. T. =291.2)

【全員に】

Q3【回答票4】あなたは、我が国の食料の生産・供給のあり方について、原則としてどのようにお考えですか。この中からあなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。

- (53.1) (ア) 外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら、できるかぎり国内で作る方がよい
- (37.2) (イ) 外国産より高くても、少なくとも米などの基本食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい
- ( 5.4) (ウ) 外国産の方が安い食料については、輸入する方がよい
- ( 0.5) その他 ( )
- ( 3.8) わからない

Q4【回答票5】あなたは、我が国の今後の食料自給率についてどのように考えますか。この中から1つだけお答えください。

- (61.4) (ア) 高めるべき
- (29.3) (イ) どちらかというとも高めるべき
- ( 4.3) (ウ) どちらかというとも高める必要はない
- ( 1.5) (エ) 高める必要はない
- ( 3.5) わからない

SQ1へ

---

【Q4で「(ア) 高めるべき」, 「(イ) どちらかというと高めるべき」と答えた者に】

SQ1 [回答票6] あなたは、食料自給率の向上のためにどのような施策が必要だとお考えですか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけお答えください。

(N=1,759)

- (50.8) (ア) 消費者のニーズにあわせた国内生産の拡大に向けた取組を図る
- (37.6) (イ) 生産面ではなく、むしろ「食育」の推進や国産農産物の消費促進など消費面からの取組の拡大を図る
- (7.1) (ウ) 国は財政負担してまで食料自給率向上のための対策はせず、生産者等の自主的な取組に委ねるべき
- (0.6) その他 ( )
- (3.9) わからない

---

【Q4で「(ア) 高めるべき」, 「(イ) どちらかというと高めるべき」と答えた者に】

SQ2 [回答票7] 国内で自給可能な米の消費量が減り、飼料・原料の自給が困難である畜産物・油脂類を多く消費するようになった食生活の変化や、国内の食料供給力の低下が食料自給率低下の主な要因となっています。あなたは、食料自給率の向上に向けて、どのように行動しようと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(N=1,759)

- (76.3) (ア) ごはんを中心とした日本型食生活を心がける
- (32.3) (イ) 米を原料とするパンや麺などの米粉製品を積極的に選ぶ
- (7.7) (ウ) 牛や豚などの畜産物の消費を控える
- (13.6) (エ) 揚げ物などの油脂類を多く使用する食品の消費を控える
- (47.1) (オ) 買い物や外食時に国産食材を積極的に選ぶ
- (0.2) その他 ( )
- (1.5) 特にない
- (1.9) わからない

(M. T. =180.7)